

# しおんだより VOL.25



## 1人でも多くの方に歩いて帰って頂きたい！

当院にご入院される方は、体調を崩された方や、怪我をされた方、また、他の医療機関から転院されて来られる方が多く、そのほとんどは、65歳以上の高齢者の方です。

体調が悪くなると、布団で休みたくなりますが、それとともに、歩かなくなります。若い時であれば大丈夫であっても、ある程度の年齢になってくると、一定期間をベッドで過ごし、歩かない期間ができてしまうと、寝たきりになってしまう危険性が高まってしまいます。

もちろん、発熱や肺炎、心不全、骨折など、疾患のために歩けない、もしくは、ベッド上で安静にさせていただくというのは大切なことですが、それらの疾患が治ったにもかかわらず、その治療期間がある程度の日数に及んでしまったために、歩けなくなってしまふことは、高齢者ではどうしても避けられないことでもあります。

そんなときに大切なのは、やはり、リハビリテーションです。とはいえ、無理な動き方をして転倒してしまつてはいけませんし、心不全や呼吸不全などの疾患の影響もある方では、運動量そのものにも注意を払っていく必要があります。

このような背景を考えれば当院でのリハビリテーションは極めて重要であり、沢山のスタッフが、約3年前にリニューアルしたリハビリ室や病棟で「1人でも多くの方に歩いて帰って頂きたい！」という想いを胸に、患者さんと一緒にがんばっているのです。

入院中の方が、リハビリテーションにより積極的に取り組んでいただけるよう十分なスペースと様々な機器を用意しています。

## 歩けるようになるためには、チーム医療の実践が不可欠です

治療の後、歩けるようになるためにリハビリテーションは、当然重要なのですが、実は、それ以外にも欠かせないものがあるのです。

一つは、栄養です。「腹が減っては戦はできぬ」と昔から言いますが、栄養が足りていなければ、リハビリにも積極的に取り組めず、効果も限定的になりますので、管理栄養士の役割も重要です。

また、服用しているお薬によっては、ふらつきが出たり、関節が硬くなったりして歩きづらくなることもあります。薬剤師が患者さんの状態を判断し、適切な処方内容に近づけていくことも欠かせません。

もちろん、治療に当たる主治医や看護師とも、患者さんの状態を共有しながら、多職種が連携しチーム医療を行っていくことが、歩いて退院して頂くためには必要なのです。



当院では、管理栄養士も病棟でベッドサイドに赴き、患者さんの状態もみながら、栄養のサポートに取り組んでいます。

## 秋の日はつるべ落とし…まさにそんな季節ですね！



天気の良い日には、当院の5階からは南港方面に沈む夕日を綺麗に見ることができます。1日の疲れを忘れて見入ってしまうひとときです。

もう40年近く前のことになりますが、私は大阪の夕陽丘にある中学・高校に通っていました。上町台地の端っこに校舎とグラウンドがありました。秋の頃には、真っ赤な夕日が通天閣の横に沈んでいくのを、校舎や校庭から眺めていました。

暑い夏が終わり、ホッとしたのもつかの間、寒い冬が近づく今のシーズン。夕日を眺めていたと思ったら、つるべ落としのように、すぐに真っ暗になってしまうのに驚いていた記憶があります。

あれからずいぶんと月日は経ちましたが、あの頃と同じように太陽は西の空に沈んでいきます。

寒い寒いという季節は、すぐそこまで来ているのでしょうか。（文責：狭間研至）

しおんだより 第25号 発行日：令和4年11月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: [www.shion-hp.or.jp](http://www.shion-hp.or.jp)